

# 2015年3月期 決算説明資料

---

2015年4月17日



GENDAI AGENCY Inc.

**ゲンダイエージェンシー株式会社**

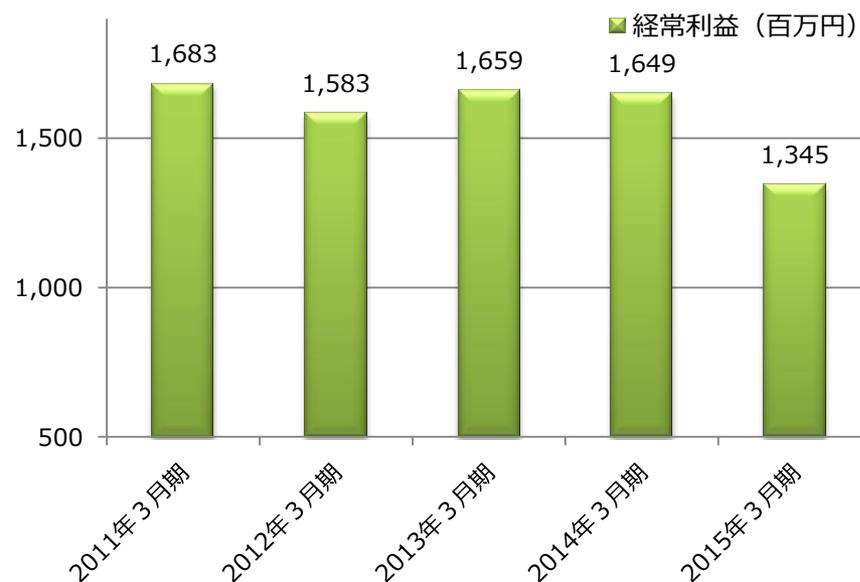
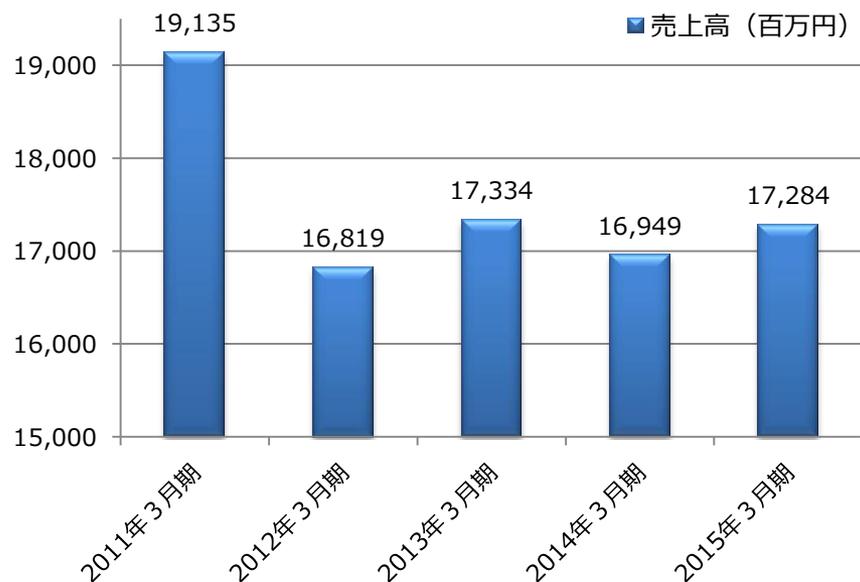
P3	財務ハイライト（連結）		【不動産事業】
P4	2015年3月期 損益計算書（連結）	P11	2015年3月期 損益計算書
P5	事業の種類別セグメント		
	【広告事業】		
P6	2015年3月期 損益計算書	P12	2015年3月期 連結貸借対照表
P7	四半期売上高の推移	P13	2015年3月期 連結キャッシュ・フロー計算書
P8	品目別売上高の推移	P14	2016年3月期 連結業績予想
P9	顧客の状況	P15	会社の対処すべき課題
P10	従業員の状況	P16	利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当について

# 財務ハイライト（連結）

□通販業界を主要顧客とする株式会社ユーアンドユー（以下、UU）を連結子会社化した結果、前期比で増収を確保したものの、各段階利益は減益となりました。

（単位：百万円）

	2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期
売上高	19,135	16,819	17,334	16,949	17,284
営業利益	1,679	1,573	1,647	1,631	1,300
経常利益	1,683	1,583	1,659	1,649	1,345
当期純利益	864	1,175	1,041	1,031	805



# 2015年3月期 損益計算書（連結）

（単位：百万円）

	当期	構成比	前期	構成比	前年同期比
売上高	17,284	100.0%	16,949	100.0%	102.0%
営業利益	1,300	7.5%	1,631	9.6%	79.7%
経常利益	1,345	7.8%	1,649	9.7%	81.6%
当期純利益	805	4.7%	1,031	6.1%	78.1%

□当連結会計年度では、景気回復の兆しが見られるものの、パチンコホール業界では特に上半期の消費税増税以降における個人消費低迷の影響を受け、ユーザーの投資金額が減少した結果、収益面で厳しい状況が続いており、ユーザー数の減少傾向にも歯止めが掛からない等、依然として厳しい経営環境が続いています。パチンコホールの新規出店においても、全体的として減少傾向にありました。

□主力の広告事業では販売シェアを拡大するため、取引店舗数の更なる増加に取り組むとともに、前期末に子会社化したUUの新たな体制作りと今後の営業戦略の構築を進めました。

□当連結会計年度の売上高は17,284百万円（前年同期比+2.0%）、営業利益は1,300百万円（同▲20.3%）、経常利益は1,345百万円（同▲18.4%）、当期純利益は805百万円（同▲21.9%）となりました。

# 事業の種類別セグメント

## □当連結会計年度

(単位：百万円)

	広告事業	不動産事業	調整額	連結
売上高	17,138	148	▲2	17,284
うち通販広告	1,043			
セグメント利益	1,678	60	▲437	1,300

## □前年同期比

(単位：百万円)

	広告事業	不動産事業	調整額	連結
売上高	+376	▲39	▲2	+335
セグメント利益	▲297	▲7	▲26	▲331

□前期末に新規連結した通販広告事業の貢献があり、当連結会計年度は前期に対して売上高で376百万円の増収となったものの、セグメント利益は▲297百万円の減益となりました。

# 2015年3月期 損益計算書（広告事業）

（単位：百万円）

広告事業	当期	前期	前年同期比
売上高	17,138	16,762	102.2%
うち通販広告	1,043	-	-
営業費用	15,460	14,787	104.6%
セグメント利益	1,678	1,975	84.9%

□当連結累計年度のホール広告市場は前期に引き続き、広告規制に伴う需要の減少に加えて、パチンコホール企業における、収益性悪化の懸念要因とする広告費の削減が断続的に続いたことから、全体的に広告需要が大きく低迷しました。グランドオープン告知特需においても、新規出店数の減少に加え、各告知案件の小型化が進んだことで、当初予想より低調に推移しました。こうした環境下で広告事業では、

- ・パチンコ広告事業において、取引顧客数の更なる増加に向けた提案活動を強化し、インターネットメディアや屋外広告の取扱比率向上に向けた提案を進めました。
- ・デザイン業務の効率化によるコスト削減に向け、連結子会社においてデザイナーを大量採用し、ローコスト体制を構築するとともに、当社の各営業所に配属されたデザイナーの集約にも着手しました。
- ・通販広告事業では、前期末の買収後の新体制構築・営業戦略の構築を進めました。

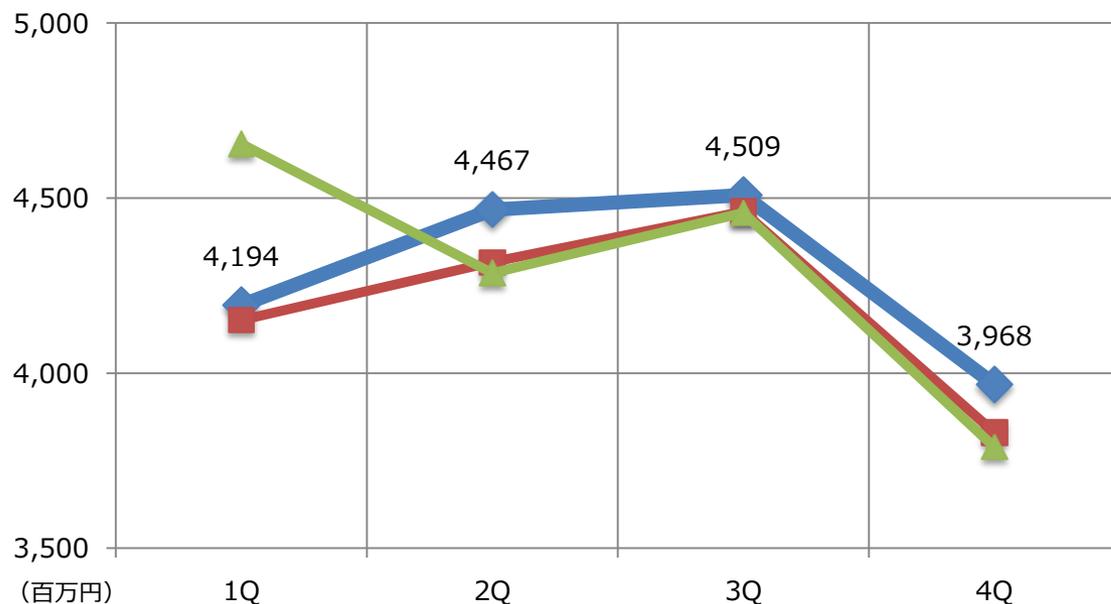
□これらの取り組みにより、UUの売上高1,043百万円がパチンコホール広告の受注減少を補えたことから、広告事業の売上高は17,138百万円（前年同期比+2.2%）となったものの、パチンコ広告事業の売上高減少に伴うマージン減少の影響により、セグメント利益では1,678百万円（同▲15.1%）となりました。

# 四半期売上高の推移（広告事業）

(単位：百万円)

	1Q	2Q	3Q	4Q	通期計
当期	4,194	4,467	4,509	3,968	17,138
うち通販広告	276	234	244	289	1,043
前期	4,152	4,317	4,462	3,831	16,762
前々期	4,655	4,286	4,458	3,789	17,188

◆ 当期    ■ 前期    ▲ 前々期



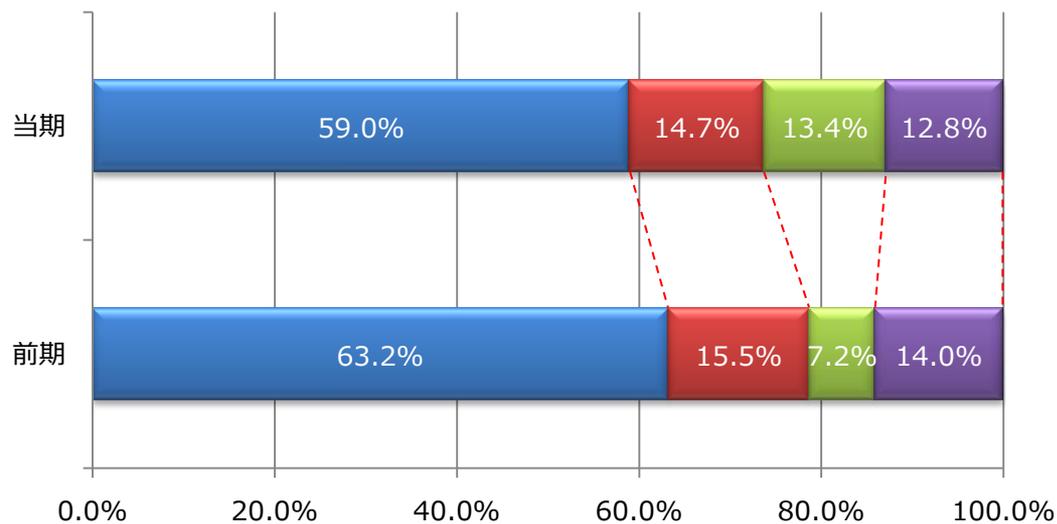
□ 通販広告事業の新規連結の影響により、売上高の前年同期比では全ての四半期で前年を上回る結果となりました。

# 品目別売上高の推移（広告事業）

(単位：百万円)

	当期	構成比	前期	構成比	前年同期比
折込広告	10,118	59.0%	10,594	63.2%	95.5%
販促物	2,527	14.7%	2,604	15.5%	97.0%
媒体	2,305	13.4%	1,215	7.2%	189.7%
その他	2,187	12.8%	2,348	14.0%	93.2%
	17,138	100.0%	16,762	100.0%	102.2%

■折込広告 ■販促物 ■媒体 ■その他



□「媒体」は通販広告事業の新規連結により、売上および構成比がそれぞれ前年同期比で+1,090百万円、+6.2ポイントとなりました。

□「その他」は主としてメーカー向けスポット売上高の減少により、前期比で減少しました。

# 顧客の状況（広告事業）

## 顧客数&顧客単価の推移

□今期を通して提案活動を強化した結果、顧客数は増加したものの、客単価は減少傾向にあります。

稼働顧客	2013年3月時点	2014年3月時点	2015年3月時点
顧客数（件）※1	1,226	1,362	1,387
顧客客単価（千円）※2	1,030	927	868

※1：月額取引50千円以上の取引先を対象としています。  
 ※2：数値は単月実績となります。



## パチンコホール取引店舗シェア率

□全体のホール数が減少する中で、当社の取引店舗シェア率は高まりました。

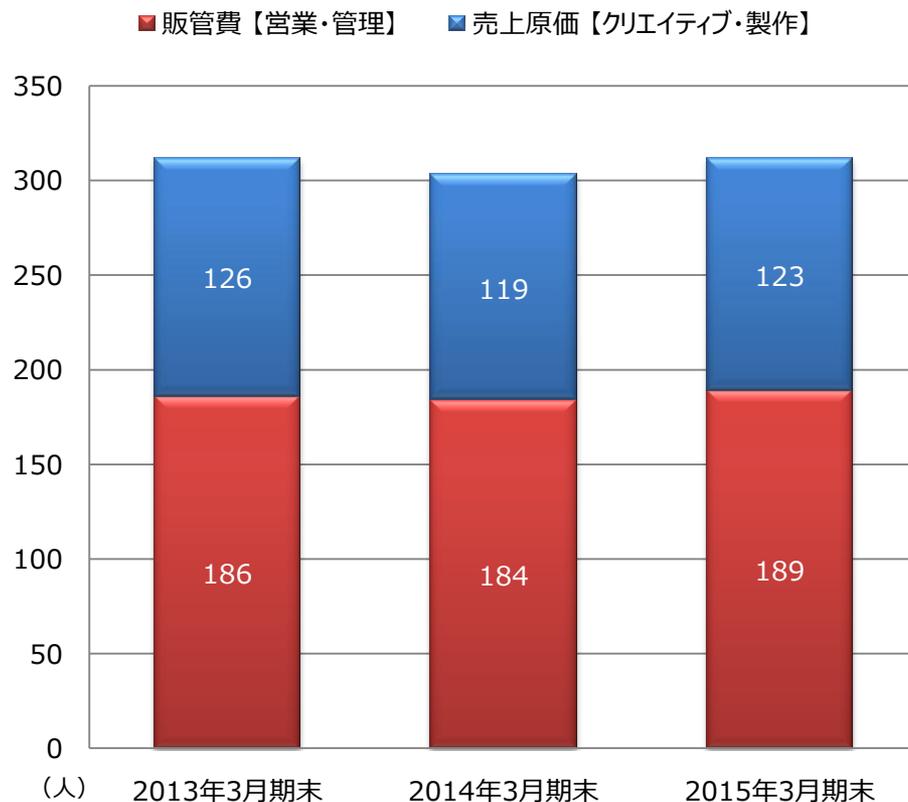
	2012年度	2013年度	2014年度
パチンコホール数（警察庁調べ）	12,149	11,893	11,627
取引店舗数（2015年3月時点）	1,226	1,362	1,387
取引店舗シェア率	10.09%	11.45%	11.93%



# 従業員の状況（広告事業）

（単位：人）

	2013年3月期末	2014年3月期末	2015年3月期末
売上原価【クリエイティブ・製作】	126	119	123
販管費【営業・管理】	186	184	189
広告事業計	312	303	312



□当社のデザイナーは前期末に比べ17名減少したものの、連結子会社におけるデザイナー採用を推進したことにより、全体のデザイナーは4名増加しています。

□2015年4月のグループ新卒入社は24名です。

## 2015年3月期 損益計算書（不動産事業）

(単位：百万円)

不動産事業	当期	前期	前年同期比
売上高	145	187	77.9%
営業費用	85	120	70.8%
セグメント利益	60	67	89.2%

□当連結会計年度においては、既契約で継続中の2件の賃貸案件の他に、売買・賃貸案件（仲介手数料売上2百万円）があり、売上高は145百万円（前年同期比▲22.1%）、セグメント利益は60百万円（同▲10.8%）となりました。

# 2015年3月期 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前期末 (A)	当期末 (B)	差額 (B) - (A)
現金及び預金	3,804	3,494	▲310
受取手形・売掛金	2,226	2,105	▲121
その他流動資産	180	306	126
有形固定資産	893	939	46
無形固定資産	259	321	62
投資その他資産	1,124	961	▲163
<b>資産合計</b>	<b>8,487</b>	<b>8,129</b>	<b>▲358</b>
支払手形・買掛金	1,289	1,220	▲69
短期借入金（一年内返済予定の長期借入金を含む）	756	460	▲296
未払法人税等	318	234	▲84
その他流動負債	238	334	96
長期借入金	270	490	220
その他固定負債	26	18	▲8
<b>負債合計</b>	<b>2,898</b>	<b>2,758</b>	<b>▲140</b>
株主資本	5,567	5,353	▲214
その他	20	17	▲3
<b>純資産合計</b>	<b>5,589</b>	<b>5,370</b>	<b>▲218</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>8,487</b>	<b>8,129</b>	<b>▲358</b>

①主として配当や自己株式取得による減少

② 短期借入金の一部を長期借入金にシフト、  
返済によりネットで▲76百万円の減少

③前期末比218百万円の減少  
～主な要因～

- ・当期純利益 + 805百万円
- ・自己株式 ▲551百万円
- ・利益配当 ▲467百万円

# 2015年3月期 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前期	当期
<b>税引前利益</b>	<b>1,659</b>	<b>1,307</b>
のれん償却費	-	44
減価償却費	68	79
長期前払費用償却額	46	46
貸倒引当金の増減額 (▲は減少)	▲0	0
受取利息及び受取配当金	▲4	▲8
支払利息	7	8
為替差損益 (▲は益)	▲16	▲42
投資有価証券売却損益 (▲は益)	▲8	-
投資有価証券評価損益 (▲は益)	-	23
売上債権の増減額 (▲は増加)	69	126
棚卸資産の増減額 (▲は増加)	▲4	▲7
仕入債務の増減額 (▲は減少)	15	▲68
その他	▲36	94
<b>小計</b>	<b>1,797</b>	<b>1,606</b>
利息及び配当金の受取額	2	10
利息の支払額	▲6	▲9
法人税等の支出額	▲850	▲579
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>942</b>	<b>1,027</b>
定期預金の払戻による収入	26	-
有形固定資産の取得による支出	▲53	▲127
無形固定資産の取得による支出	▲11	▲130
投資有価証券の取得による支出	▲459	▲52
投資有価証券の売却及び償還による収入額	37	30
子会社株式の取得による支出	-	▲24
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	-	3
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	▲285	-
貸付による支出	▲65	-
敷金及び保証金の回収による収入	11	51
敷金及び保証金の差入による支出	▲0	▲44
その他	38	27
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>▲762</b>	<b>▲266</b>
短期借入金の純増減額 (▲は減少)	500	▲500
長期借入による収入	-	700
長期借入金の返済による支出	▲368	▲297
配当金の支出	▲464	▲467
少数株主からの払込による収入	-	21
自己株式の取得による支出	-	▲551
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>▲333</b>	<b>▲1,095</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	11	31
現金及び現金同等物の増減額 (▲は減少)	▲142	▲302
現金及び現金同等物の期首残高	3,981	3,839
<b>現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>3,839</b>	<b>3,536</b>

①税金等調整前当期純利益が減少したことによる法人税の支出減少

②販売管理システムのリプレイス等による支出

③前期はUUの株式取得によるもの

④短期→長期借入にシフト

⑤配当金の支出467百万円

⑥自己株式取得551百万円

積極的な株主還元

# 2016年3月期 連結業績予想

	第2四半期連結累計期間		通期	
	金額(百万円)	当2Q累計比	金額(百万円)	当期比
売上高	8,350	▲4.4%	16,700	▲3.4%
営業利益	610	▲7.2%	1,220	▲6.2%
経常利益	610	▲9.4%	1,220	▲9.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	405	+1.0%	810	+0.6%

□次期の経営環境は、当期に引き続きパチンコユーザー数及びパチンコホール数が減少すると予測され、それに伴い、広告予算も引き続き抑制されるものと見られることから、主力のパチンコホール広告需要は次期においても、なだらかに減少するものと予想しています。

# 会社の対処すべき課題

□経営戦略を実現するための課題として、以下の施策を実施します。

## ①パチンコホール広告事業における収益構造の転換

- ✓自社メディアである (pachiseven.jp)をはじめとしたインターネットサービスの受注拡大
- ✓連結子会社であるエンサインアド社と協業して、効果的な屋外広告枠の開発・販売に注力
- ✓パチンコ業界の労働力不足を背景に、求人広告販売や求人系メディア企業との提携推進

## ②パチンコホール以外の異業種クライアントに対する広告業展開

- ✓UUにおいて、通販企業を主とした新規顧客獲得を積極的に推進
- ✓当社が培ってきた紙媒体広告のノウハウを元に、異業種向けプリンティング事業の開始  
ならびにクリエイティブ部門の大規模リソースを活用したデザイン受託ビジネスのテスト開始

## ③継続的なコストダウン施策の推進

- ✓連結子会社ジュリアジャパンにクリエイティブ部門を集約、適正配置によるデザインコスト＝固定費の最適化
- ✓コスト削減効果の高いDM印刷・郵送関連費用の見直しを図り、適正発注による変動費の最適化

# 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当について

	2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期予測
営業利益率	9.6%	7.5%	7.3%
EPS	62.12円	51.08円	51.59円
ROE	19.5%	14.7%	—
配当金 (うち中間配当)	28.00円 (14.00円)	30.00円 (15.00円)	30.00円 (15.00円)

□目標連結配当性向については、キャッシュ・フローの状況を勘案し、当面50%を目安とします。さらに資本効率の向上を重視し、適切なタイミングにおいて自己株式の取得を実施いたします。

□2015年3月期の配当金については、上記の方針を踏まえ、1株当たり配当金は15.00円といたします。尚、当中間配当（15.00円）と併せた1株当たり年間配当金は30.00円（連結配当性向58.7%）となります。

□2016年3月期の配当予想についても、上記の基本方針を踏まえ、現時点では年間30.00円（連結ベースの予想配当性向58.1%）を計画しております。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の情報に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

・IR窓口 経営企画部 Tel.03-5358-3334